

岐阜県嚥下障害研究会

モグモグ通信

No. 13 (2009. 1 発行)

平成21年は、
地域の社会福
祉施設や老人
保健施設、そ
して特別支援学
校との連携を。



発行所:岐阜県嚥下障害研究会
事務局:木沢記念病院 ST室

岐阜県嚥下障害研究会 20年度事業進捗報告

1、第11回岐阜県嚥下障害研究会学術講演会
中濃大会を11月23日(日)、タウンホールとみ
か(加茂郡富加町)にて開催。

大会長は山森亜美氏(木沢記念病院 言語聴覚士)
で、301名の参加。

2、口腔機能向上について

岐阜県歯科医師会、岐阜県歯科衛生士会と協力
し、口腔機能向上の普及を目的に、岐阜県(健康
福祉部高齢福祉課)主催の介護予防従事者研修会
への講師協力。岐阜県「介護予防」実践マニユ
アル 第三部「口腔機能向上」を使用して、6月
5日、6月12日、7月17日の3回で合計50
2名の参加。

3、第11回摂食・嚥下リハビリテーション初
級課程講習会を8月31日(日)、木沢記念病院に
て開催。108名の参加。

4、小児関連勉強会

第1回勉強会「小児療育における姿勢保持の基
礎と実際」を6月14、15日、各務原市福祉の里
にて開催。65名の参加。

第6回小児摂食指導講習会を10月11日、12
日、平成21年1月24日(全3日間)、岐阜県
立希望が丘学園にて開催。59名の参加。

第2回勉強会「コミュニケーション支援を考
える～インリアルアプローチから学ぶ～」を11月
1日、2日、平成医療専門学院にて開催。64名
の参加。

5、成人関連勉強会

第1回勉強会①「急性期の口腔内の特殊性」、
②「急性期病院における口腔ケアとリスク」を6

月23日、木沢記念病院にて開催。45名の参加。

第2回勉強会①「回復期、慢性期における口腔
の問題点」、②「回復期、慢性期における口腔ケア」
を平成21年1月18日に木沢記念病院にて開催。
46名の参加。

6、モグモグ通信発行

- ①第11号 発行 3月
- ②第12号 発行 5月
- ③第13号 発行 21年1月
- ④第14号 21年5月 発行予定

第3回成人勉強会(症例検討と講演)のご案内

日 時:3月7日 13:30~17:00
場 所:木沢記念病院 中部療護センター
内 容:1、症例検討会

- ① 両側皮質梗塞による摂食嚥下障害の一例
千秋病院(愛知県)言語聴覚士 櫛田衣通子氏
- ② 成人期における体幹機能障害をあわせもつ方
の食事と生活を考える(仮)
重症心身障害児者通園事業B型 第二いぶき
支援員 山口泰代氏
- ③ 症例発表(演題未定)
カモ歯科クリニック 歯科医師 桑原由紀子氏
- ④ 嚥下困難の初発症状で紹介となった外傷歴の明
らかでない破傷風の一例
松波総合病院 摂食嚥下認定看護師 森田しおり氏

2、講 演 「摂食・嚥下障害者の看護」

岐阜市民病院 摂食嚥下認定看護師 川上智子氏
申し込み:別添えの申込用紙をご利用ください。



他職種との交流がもてた事

のぞみの丘ホスピタル

看護師 岩井智代子

会員の皆様こんにちは。私は、のぞみの丘ホスピタル（単科の精神科病院）で身体管理を含んだ療養病棟で働いています。初めて摂食・嚥下リハビリテーション初級課程講習会に参加しました。

当病棟は、日常生活において全介助・部分介助の人が多く、IVH 管理・胃ろう造設・歯があっても上手く磨けない人・歯のない人等に口腔衛生に関して、具体的にどのようにしたら気持ち良く毎日が過ごして頂けるのかという思いで参加しました。

内容は、言語聴覚士の加藤孝憲先生は、パワーポイントを使った講義、食道造影による嚥下状態を動画で、豊島先生は、お菓子のかっぱえびせんを使って食塊形成をどのようにしたらできるのか、川口先生は、歯磨きの仕方について鏡を見ながら実践しました。

特に印象深かったのは、歯科衛生士の川口千治先生による講義で、染め出し液を自分の歯につけ、どれだけ汚れているかを目で確かめて、その後、

歯の磨き方を教わり各自、磨きました。赤い液が大分残っていて、隣の席の人に見て頂くのが恥ずかしかったです。

入れ歯には、歯磨き粉を使用しない。理由は、研磨剤がはいっているからと言われ、冷や汗がでました。それは、昔姑の入れ歯を手入れしていた時に、歯磨き粉を当たり前のように付けて、これが常識と言っていた自分が、過去にあった事を思い出したからです。

舌のケアとして舌ブラシもあり、100円コーナーで、舌クリーナーを売っている事・一度に舌苔を取らないなど知っていて当たり前の事が、私にとっては、新鮮な知識として映りました。

帰り際に、歯科衛生士の方と話しが盛り上がりました。「ケアしながら、一緒にマッサージすると楽ですよ。これだけをしなくていけないと思うとできないし、気も重いですよ。」他職種の方の話も聞く事ができました。

今回学んだ知識を生かし歯磨きの仕方は、当病棟の患者さんにさっそく実践したいと思います。

場 所 : 木沢記念病院 中部療護センター
講 師 : 加藤孝憲氏 川口千治氏 豊島義哉氏
(副会長) (理事) (会長)

ブラッシングの基本テクニック

其の壱

ブラッシング・・・表情の観察・声かけを忘れずに。

えんぴつ持ちで軽く握り、歯と歯肉の境目に毛先を当て、小刻みに左右に振動させる様に、又は小さく円を描く様に磨きます。（耳の掃除の時のような感じで）

磨く圧力は軽いタッチで。強く磨いても汚れは取れません。歯ブラシは随時ゆすぎながら汚れを落とし、余分な水分は切ってから使用。

1) 咬み合わせた状態で外側から磨く、開口してもらう必要はない。

2) 開口してもらい、内側を磨く、下からの方が磨きやすい。

歯ブラシの毛先部分を使い、縦に磨いてみましょう。

3) 咬み合わせを磨く。

咬反射がある場合は歯ブラシを咬ませないよう注意する

*注意 磨く順序はあくまで基本的なもので、対象者の状況に応じて臨機応変に対応してください

ブラッシング困難等で対処できない場合は専門家に相談しましょう

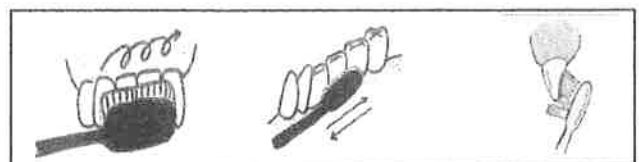


図 ブラシの当て方

小児勉強会 レポート

継続
は
力
なり

QOLの向上からHOLへ(^o^)/

県立多治見病院

看護師 亀岡 由香

6月14日・15日と各務ヶ原市「福祉の里」にて、辻 清張先生の「小児療育における姿勢保持の基礎と実際」といったテーマで勉強会が開催されました。耳鼻科外来への配属になり「飲み込みにくい」を主訴としてみえる患者様は、主として成人が対象となりますが、姿勢保持というキーワードに興味をもち今回参加を希望させていただきました。希望者が多い中、幸運にも勉強会の参加が叶い大変興味深く講義を聴かせていただきました。

講義では姿勢保持のメカニズム、目的に応じたポジショニング、また食事・移動・沐浴・乗馬・水泳等多岐に渡った日常生活支援について、先生の長年に渡る豊富な経験から話していただきました。昼食後の講義でしたが、睡魔が私を襲う隙もなく先生の講義やスライドに

日時：平成20年6月14・15日

場所：各務原市 福祉の里

「小児療育における姿勢保持の基礎と実際」

講師：辻 清張氏

福井子ども療育センター 理学療法士

ひきこまれ「わあ～すごい!」「あんな方法もあるんだ!」の感激の連続でした。特に水泳や乗馬を経験している児のやわらかい表情は印象的で、安定した姿勢が保てることは身体だけでなく心の安定も得られるのだと感じました。整った環境の中で自己実現の要求が満たされているからこそあのような児の表情の豊かさにつながり、結果として治療効果があがるのだと思いました。



現在外来部門においても摂食・嚥下について活動している最中ですが、診察中患者様から「むせるからご飯がまずい。何とか美味しく食べられないだろうか。」といった言動はよく聞かれ、食べる楽しみまでうばわれたせつない気持ちがひしひしと伝わってきます。小児に限らず成人においても同様、美味しく食べたいという人としての当たり前前の要求がリスクを伴うことなく実現できたなら、患者様のQOLは向上し、しいてはHOL (Happiness of life) への到達につながるのだと思いました。貴重なご講演を有り難うございました。

ブラッシングの基本テクニック

其の式

開口拒否・開口困難の方への対応・・・違いを見極める

拘縮・麻痺等による開口困難なのか？強い拒否による開口拒否なのか？

脱感作が必要な時・・・口腔周囲の筋肉から緊張をほぐし、和らげます。下顎から触れます。(上顎前歯部は過敏部分です。) 末端から中枢へゆっくりと触れていきます。

歯肉出血が顕著な方への対応

口腔粘膜等の傷による出血でなく、歯肉炎による出血であれば、少量は仕方がないが、粘膜は弱くなっている為傷をつけないよう注意して磨きましょう。改善しない場合は歯科医、歯科衛生士に相談をしてください。

初めのうちはやわらかめの歯ブラシを使用するとよいでしょう。ケアの最後に止血を確認してください。

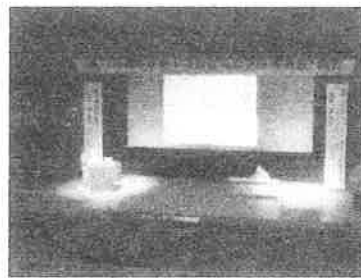
第11回学術講演会・総会の風景



開催日 : 平成20年11月23日(日)
 会場 : タウンホールとみか(加茂郡富加町)
 特別講演 : 「施設、在宅での嚥下指導と栄養支援」
 ~地域の歯科医師と連携して~
 講師 : 菊谷 武先生
 日本歯科大学歯学部 准教授
 企画 : ① 嚥下障害補助食品メーカーによる商品紹介
 ② 口腔ケア体験コーナー
 教育講演 : 「嚥下機能の低下した人の栄養管理」
 講師 : 栢下 淳先生
 県立広島大学健康科学科 准教授



▲ 分かりやすい講演でした。



▲ 総会



▲ メーカーによる商品紹介



▲ いつも楽しい前夜の囲む会



▲ 大賑わいの嚥下障害補助食品コーナー



▲ 恒例となった口腔ケア体験コー



▲ スタッフ一同です。

— 編集後記 — 今年度も学術講演会を多くの参加者をお迎えし、盛会の中、終わることができました。これも会員ならびに関係者の皆様の嚥下リハビリへの関心の高さの賜物と感謝申し上げます。次大会は、高山大会です。大会長は山ゆり学園の吉田朋生氏です。沢山の方にお越しいただけるよう、興味ある企画をと考えています。また、小児、成人関連勉強会へも、多くの方々のご参加をいただきますようお願い申し上げます。
 (文責 岐阜県嚥下障害研究会 豊島)